

## 現代青年の社会態度の構造 — 態度を構成する次元の検討 —

筑波大学心理学系 加藤 厚

〃 加藤 隆勝

A new approach to the measurement of adolescents' social attitudes

Atsushi Kato and Takakatsu Kato (Institute of Psychology, University of Tsukuba, Ibaraki 305)

A new measure of adolescents' social attitudes consisted of five conceptually independent subscales ( tradition-oriented, innovation-oriented, rationalistic-individualistic, pleasure-seeking, apathetic-nihilistic ) was constructed and validated.

Principal characteristics of present youths' social attitude derived from the analysis of 94 male and 94 female university students' data are as follows:

- (1) "Rationalistic-individualistic" social attitude is the most dominant attitude.
- (2) "Tradition-oriented" and "innovation-oriented" attitudes are not major social attitudes.
- (3) "Pleasure-seeking" social attitude correlates positively with "apathetic-nihilistic" social attitude.

Key words: social attitudes, scale construction, university students, rationalistic-individualistic attitude, pleasure-seeking attitude, apathetic-nihilistic attitude.

青年の社会態度を概念化し測定するための主要な枠組みとしては、さまざまな社会態度の因子分析によって得られた「保守的」—「革新的」態度次元や、社会行動の現象的分析に基づいて提出された「大衆社会的」態度次元が広く認められてきている(西平, 1968; 久世・速見, 1974; 久世・浅野・後藤・二宮・宮沢・宗方・大野・内山, 1985 a, 等)。しかし、久世らも最近の論文(久世・浅野・後藤・二宮・宮沢・宗方・大野・内山, 1984)で認めているように、「保守的—革新的」という社会態度の次元は「1960年代に支配的であった」(p.25)枠組みと考えられ、現代の青年においては、「保守的」か「革新的」かといったイデオロギッシュな立場にこだわることなく、むしろ脱(無)イデオロギー的かつ合理的に自らの行動様式を選択する「個人主義的」態度が広く認められる。

また大衆社会的態度についても、「それ自体は統一的な理論モデルというよりも、むしろ現代社会を

把握するための複合的なモデル」(久世・浅野・後藤・二宮・宮沢・宗方・大野・内山・和田, 1985 b, p.9)と見なすべきであり、そこには実際には多様な内容が含まれていると考えられる。より具体的には、社会の豊潤化の一層の進行にともなって、感覚追求のかつ現状肯定的な態度(我々はこれを「感覚的・娯楽指向的」態度と名づけた)が青年一般の基本的態度にすらなっている一方で、管理・統制の行き届いた現代社会のなかで、少なからぬ青年が夢や野心を持ちえず、無力感にとらわれ、社会に対して無気力的で虚無的な態度をもつに至っていることが指摘できる。従って、いわゆる「大衆社会的」態度は、現状においては少なくとも2つの次元を包含しており、現代青年の社会態度のより分析的な把握・検討のためにはこれらはそれぞれ独立した次元として概念化され測定されるべきであろう。

そこで本研究は、以上のことをふまえながら、現代青年に特徴的な社会態度をより適切に把握しう

尺度を作成し、その妥当性と独自の意義とを実証的に検討することによって、青年理解のための新たな理論的実証的な枠組みを構成することが試みられた。

## 方 法

### 1. 次元の設定と項目の作成

まず、現代青年に特徴的な社会態度の次元として、従来の「伝統指向的」、「革新指向的」に加えて、「合理的・個人主義的」態度の存在を仮定した。また、従来の「大衆社会的」態度を「感覚的・娯楽指向的」態度と「無気力的・虚無的」態度の2次元に分化・独立させ、全部で5つの社会態度次元を想定した。次に、青年心理学研究者4名によって、社会態度を構成する主要な領域と考えられる対人関係観、生活観、職業観、女性観、政治意識といった計11の側面について、各社会態度を適切に反映すると考えられる項目内容が収集・作成され、数回の検討・修正をへて全員の合意が得られた項目内容が予備調査項目とされた。

### 2. 調査の対象者と実施の時期

この予備項目(各次元13~15項目、計72項目)と、併せて支持政党を問う質問紙を、国立T大学の大学生および修士課程大学院生計188名(男子94, 女子94)に実施した。調査対象者の内訳はTable 1に示した通りである。

Table 1 調査対象者の内訳

	大 学 1 年 生	大 学 3 年 生	大学院生 (修士課程)	計
男子	4 5	3 1	1 8	9 4
女子	4 5	4 0	9	9 4
計	9 0	7 1	2 7	1 8 8

尺度項目への回答法は4件法とし、「そう思う」を4点、「どちらかといえばそう思う」を3点、「どちらかといえばそうは思わない」を2点、「そうは思わない」を1点として得点化した。また、大学1年生に対しては、従来の3次元(保守的、革新的、大衆社会的、各13項目)からなる社会的態度質問紙(久世ら, 1984; 1985b)も実施した。調査は1985年10月~1986年3月に行われた。

### 3. 尺度項目の選定

まず、各尺度の内的整合性を高めることを目的として、項目一合計相関係数が求められ、その値の高い10~11項目が残された。続いて、尺度間の独立

性・判別性を高めるために、各項目とその項目を含まない他の4尺度との相関係数が求められ、(a)本来の尺度との相関よりも他の尺度との相関のほうが高い、(b)他のいずれかの尺度との相関が+.40を上回る、のいずれかに該当する項目が取り除かれた。さらに、残った項目について再び項目一合計相関係数が求められ、その値の高い順にTable 2に示した各次元8項目ずつ、計40項目が本尺度項目として選定された。

## 結果と考察

### 1. 社会態度の各次元の全体的傾向および信頼性の検討

全調査対象者188名における各社会態度得点の平均値と標準偏差、および信頼性係数 $\alpha$ は、Table 3に示したとおりであった。平均値は合理的・個人主義的の態度が最も高く、革新指向的の態度がそれに続き、無気力的・虚無的の態度は最も低くなっている。この結果は、大学生および修士段階の大学院生においては、合理的・個人主義的の態度が平均的に最も顕著な社会態度であり、一方、無気力的・虚無的の態度の水準は低いことを示している。しかし、これは国立大学の学生という、知的水準の高い青年群における傾向である点に注意する必要がある。

各尺度の信頼性係数をみると、革新指向的の態度尺度の値がやや低いが、全体的には一定水準以上の信頼性をもった尺度群であるといえよう。

Table 3 各社会態度の平均値、標準偏差、信頼性係数 $\alpha$

伝 統 指 向 的 態 度	18.9	(3.2)	.608
革 新 指 向 的 態 度	22.2	(3.3)	.559
合 理 的 ・ 個 人 主 義 的 態 度	24.0	(3.2)	.604
感 覚 的 ・ 娯 楽 指 向 的 態 度	17.8	(3.6)	.688
無 気 力 的 ・ 虚 無 的 態 度	13.9	(3.6)	.749

(N=188)

### 2. 社会態度の各次元の妥当性および独自の意義の検討

#### a. 従来の社会的態度との関連

各尺度の基準連関妥当性と独自の意義の検証を目的として、本研究で作成された5尺度と久世らの3社会的態度尺度との相関係数を求めた。結果はTable 4に示したとおりであった。

Table 2 社会態度尺度の項目と因子分析の結果

	I	II	III	IV	V
伝統指向的態度					
*1. たえまちがっていると思っても、上司や先輩のいつけには服従する	-.058	-.186	.287	-.320	.025
11. 自分個人を主張するよりも、上司や先輩を立てるべきだ	-.204	-.248	.325	-.156	-.054
21. 就職はやはり安定した大企業や公務員がいい	.008	-.097	.400	-.035	.012
34. 親の老後のめんどうは子供がみるべきだ	-.207	-.355	.079	.090	-.431
35. 女性は社会に出て仕事につくよりも、家事や育児に専念の方がいい	.195	-.249	.332	.158	-.344
46. 結婚式や披露宴では習慣や伝統を重んじたい	.059	-.573	.232	.248	.018
63. 伝統や習慣は多少不合理であっても尊重すべきだ	-.055	-.512	.125	.191	-.059
69. 世の中の秩序を守るためには上下関係は無くしてはならない	-.303	-.103	.478	.148	-.150
革新指向的態度					
6. 男女の間に真の愛情があればしきたりや世間体など気にすべきではない	.140	.398	-.058	.220	-.004
39. 社会の進歩に貢献する仕事をすることにこそ価値がある	-.058	-.062	.077	.583	.179
22. 夢や理想を追求しない人生は無意味だ	-.052	.033	.181	.342	-.022
31. 老後のめんどうを子供に期待するよりも社会福祉を充実させる方が大切だ	.143	.447	.077	.029	.329
62. 政治をよくするためには、もっと革新的な勢力を強くしなければならない	.038	.113	-.107	.403	.089
72. 私たちの努力で今の社会をよりよくしてゆきたい	-.236	-.098	-.172	.612	.015
66. 芸術や文学も社会の改革に役立つものでなければならない	-.104	-.046	.009	.198	.321
70. 働く人々が幸福になるためには、労働者の団結が必要だ	-.244	.044	.083	.413	.013
合理的・個人主義的態度					
17. 必要な時には上司・先輩・後輩の区別なく、自分が納得いくまで議論する	-.171	.252	-.063	.338	-.163
23. 結婚してもうまくいかないことがわかったら、ためらわず離婚した方がいい	.117	.332	-.017	-.011	.037
27. 夫婦は子供のためではなく、夫婦自身のために生きるべきだ	.031	.361	.033	.058	.060
32. 夫婦の役割分担は、各々の能力適性に応じて夫婦ごとで決めればいい	-.125	.408	-.005	.208	-.127
56. いくら伝統だからといっても不合理なことはやめるべきだ	-.093	.427	.146	.162	.020
42. 結婚式などの儀式は自分たちなりの個性あるやり方でやりたい	-.160	.580	-.023	.200	-.033
61. 自分の生活上の不満や要求はマスコミなどを利用して率直に表現すべきだ	.037	.245	-.019	.351	-.088
67. 私生活には互いに干渉しないことが大切だ	.251	.297	.258	.088	-.164
感覚的・娯楽指向的態度					
19. 上司や先輩のいうことよりもなかまの意見に従って行動する	.345	.014	.154	.292	.185
12. 恋人の条件はまず第1に「カッコいい」ことだ	.385	.080	.212	.049	.243
44. 理論よりもフィーリングやムードの方が重要だ	.149	.303	.325	.241	.306
26. 女性は「かわいい存在」であることが一番大事だ	.231	-.095	.516	.064	-.057
55. 結婚式は豪華なムードでやりたい	.157	-.130	.304	.065	.430
51. 学生時代には政治問題などを考えるよりスポーツやレジャーを楽しむ方がいい	.128	.085	.526	-.115	.130
49. 政治や社会問題よりもファッションやレジャーに興味がある	.076	.239	.409	-.121	.145
60. 芸術も日常生活もすべて「いいムード」であることが何より大事だ	-.001	.183	.470	.219	.144
無気力的・虚無的態度					
25. 上下関係などわずらわしいだけだ	.584	.080	-.156	.057	-.022
18. 他人はいつでもいいし、つきあいたいたいと思わない	.659	-.090	-.145	-.167	.108
15. 愛情とか恋愛とかについてまじめに考えるのは無意味なことだ	.593	-.062	-.015	-.179	.062
43. なにをしたところでむなしと思う	.344	.047	.006	-.058	-.057
36. 親と子の関係はわずらわしいだけだ	.504	.113	.108	-.085	.236
20. 女性の地位とか役割の問題には興味は無い	.577	.046	.282	-.078	-.130
59. 習慣とか伝統などは私にはどうでもいい	.436	.468	.096	.048	-.062
50. 社会のためにつくそうなどと考えても、孤立感や挫折感を味わうだけだ	.411	-.017	.246	-.066	-.015
分 散	3.14	2.90	2.36	2.21	1.20
寄 与 率 (パーセント)	7.85	7.25	5.90	5.53	3.00

\* 番号は予備項目群における通し番号

保守的態度と伝統指向的態度, 革新的態度と革新指向的態度, そして大衆社会的態度と感覚的・娯楽指向的態度との間にかなり高い正の相関が認められ, 本研究で作成された伝統指向的, 革新指向的, 感覚的・娯楽指向的の各尺度の妥当性が一応支持されている。

一方, 無気力的・虚無的態度および合理的・個人主義的態度については, とともに保守的態度とは負に, 革新的態度とは正に相関するものの, 正の相関の値はいずれも .3 に満たない。従って, これらの2社会態度については, 従来 of 3 社会的態度によっては「保守的でないものが高い水準を示す傾向がある」という消極的な説明しかなしえない。これは, 新たに作成された無気力的・虚無的および合理的・個人主義的の両社会態度が, 従来 of 社会的態度尺度においては十分に把握されていない独自の社会態度次元であることを示唆する結果である。

b. 支持政党との関係

支持政党を第2の外的基準として各尺度の妥当性を検証することを目的として, 全調査対象者188名中, 自由民主党あるいは新自由クラブを支持政党として選択したものの25名を保守群, 日本社会党あるいは日本共産党を選択したものを9名を革新群, 「特

無い」を選択した148名を脱(無)イデオロギー群として, 3群間で各社会態度の水準を比較した。なお, その他の諸政党を支持した者(6名)のデータは, 少数のため本分析では分析対象から除外した。

結果は Table 5 に示したとおりであった。伝統指向的および革新指向的の両社会態度に, 期待された方向の有意差が認められ, 両尺度の妥当性が支持されている。全体の約8割をしめる脱(無)イデオロギー群の革新指向的態度の水準は保守群のそれよりもさらに低い。しかし, 予想に反して, 脱(無)イデオロギー群が感覚的・娯楽指向的, 無気力的・虚無的の両社会態度の水準において, 他の2群を上まわる傾向は認められなかった。

合理的・個人主義的, 感覚的・娯楽指向的, 無気力的・虚無的の3社会態度尺度については3群間に有意差は認められず, これらの社会態度が非政治イデオロギー的なものであることが示唆されている。

3. 相関関係の分析に基づく合理的・個人主義的および無気力的・虚無的社會態度の検討

以上の分析により, 本研究で作成された5つの社会態度尺度のうちの3尺度の妥当性が検証され, また他の2尺度の独自の意義も示唆された。そこで,

Table 4 従来 of 社会的態度尺度(久世ら)と本尺度の各社会態度との相関

	伝統指向	革新指向	合理・個人	娯楽指向	無気力・虚無
保守的	.581**	-.123	-.302*	.068	-.442**
革新的	-.324**	.330**	.294*	.153	.281*
大衆社会的	.116	-.198	.048	.456**	.135

(\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , 両側検定; 大学1年生,  $N = 68$ )

Table 5 支持政党と各社会態度の水準との関連および分散分析の結果

	伝統指向	革新指向	合理・個人	娯楽指向	無気力・虚無
保守群 ( $n = 25$ )	20.3	22.4	23.6	18.8	14.3
脱イ群 ( $n = 148$ )	18.8	21.9	24.0	17.7	13.8
革新群 ( $n = 9$ )	16.9	24.8	25.2	16.4	13.9
( $N = 182$ )	$p < .05$	$p < .05$	n. s.	n. s.	n. s.

保守群: 自由民主党あるいは新自由クラブを支持

脱イ群: 支持政党は「特に無い」

革新群: 日本社会党あるいは日本共産党を支持

Table 6 各社会態度間の相関

	無気力・虚無	娯楽指向	合理・個人	革新指向
伝統指向	-.113	.149*	-.281**	-.062
革新指向	-.085	.157*	.379**	
合理・個人	.051	.144*		
娯楽指向	.320**			

(\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , 両側検定;  $N = 188$ )

本分析では、独自の意義が示唆された合理的・個人主義的態度および無気力的・虚無的態度の2社会態度について、他の社会態度との関連にもとづく検討を加える。

5つの社会態度間の相関係数はTable 6に示したとおりであった。まず、合理的・個人主義的態度は革新指向的態度と正に、伝統指向的態度と負に相関しており、伝統には批判的でやや革新的な指向性を持っているといえる。また、合理的・個人主義的態度は無気力的・虚無的態度とはほとんど無相関である。

一方、感覚的・娯楽指向的態度は八方美人的に他の全ての社会態度と正に相関しているが、無気力的・虚無的態度との相関が最も高く、現代青年の感覚的娯楽指向の裏側に潜む無力感の存在を示唆しており、先に仮定した「豊潤な管理社会の二面性」の存在を支持する結果となっている。

4. 因子分析を用いた現代青年の社会態度の検討

本節では、各社会態度尺度およびその個々の項目によって把握された現代青年の社会態度の特徴について、因子分析を用いてその概観の検討を試みる。

a. 共通因子平面における5つの社会態度ベクトルの布置

現代青年の社会態度の状況をより直観的に把握することを目的として、社会態度の5つの下位尺度を因子分析して得られた第一および第二因子によって定義される共通因子平面上における各社会態度のベクトルの布置をFig. 1に示した。なお本因子分析では、まず主因子解を第2因子まで求め、ヴァリマックス回転を行った。各社会態度への第1および第2因子の負荷量等は、Table 7に示したとおりである。社会態度尺度得点の全分散の約45%を説明しうる共通因子平面上における各社会態度のベクトルの布置は、現代青年における主要な社会態度はまず感覚的・娯楽指向的態度であり、続いて、合理的・個人主義的態度であること、そして、革新指

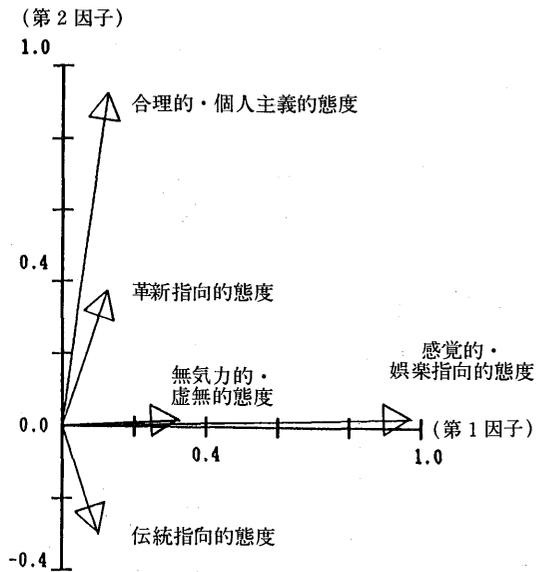


Fig. 1 共通因子平面上的各社会態度ベクトルの布置

Table 7 5つの社会態度の因子分析の結果

	第1因子	第2因子
伝統指向的	.120	-.300
革新指向的	.115	.377
合理的・個人主義的	.115	.937
感覚的・娯楽指向的	.996	.031
無気力的・虚無的	.289	.016
分散	1.12	1.11
寄与率(パーセント)	22.3	22.2

向的、伝統指向的、および無気力的・虚無的の3社会態度は、むしろ二義的な位置を占めるにすぎないことを示している。

これらの結果は、独立した社会態度の次元として新たに想定され尺度化された合理的・個人主義的、および感覚的・娯楽指向的の両社会態度が、伝統指向的-革新指向的といった政治イデオロギー的な色彩の強い従来の枠組みに代わって、現代青年の社会態度の主要な枠組みとなっていることを示している。

#### b. 社会態度尺度の個々の項目の因子分析

これまでの分析は、当初仮説的に設定された社会態度の5次元構造に従い、それを検証する方向で行われてきた。本分析では、本論文の一応のしめくくりとして、これまでの分析を導いてきた社会態度の5次元モデルの枠組みからいったん離れ、本研究で作成された社会態度尺度の全項目を対象として、その因子構造の検討が試みられた。

全40項目を対象としてまず主因子解を第5因子まで求め、ヴァリマックス回転を行った。その結果はTable 2に示したとおりである。

第1因子は、無気力的・虚無的態度のなかでもとりわけ対人関係に関する項目(「他人はどうでもいいし、つきあいたいと思わない」、「愛情とか恋愛とかについてまじめに考えるのは無意味なことだ」、等)に高く負荷しており、現代青年における自閉的・関係拒否的な傾向の存在を示している。全体における無気力・虚無的態度の水準が低いにもかかわらず、このような因子が第1因子として抽出された原因としては、これらの項目間の相互相関が高いこと、つまり自閉的・関係拒否的な傾向を一貫して示す青年群が、現代の青年の中に(かならずしも多数ではないが)存在していることが考えられる。

第2因子は、合理的・個人主義的態度の各項目(「結婚式などの儀式は自分たちなりの個性あるやり方でやりたい」等)に正に負荷する一方、習慣や伝統を重視する態度(「結婚式や披露宴では習慣や伝統を重んじたい」、「伝統や習慣は多少不合理であっても尊重すべきだ」、等)には負に負荷している。また、革新指向的態度の中の「老後の面倒を子供に期待するよりも社会福祉を充実させる方が大切だ」、「男女の間に真の愛情があればしきたりや世間体など気にすべきではない」、無気力・虚無的態度の中の「習慣とか伝統などは私にはどうでもいい」等の項目にも正に負荷しており、伝統や習慣にとらわれず、合理的に判断し個性を主張する現代青年の傾向を反映した因子と考えられる。

第3因子は、感覚的・娯楽指向的態度の項目(「学生時代には政治問題などを考えるよりスポーツやレジャーを楽しむほうがいい」、「女性は『かわいい存在』であることが一番大事だ」、等)と伝統指向的態度の項目(「世の中の秩序を守るためには上下関係は

無くしてはならない」、「就職はやはり安定した大企業や公務員がいい」、等)に負荷しており、現代青年の享樂的かつ大勢順応的態度を反映した因子となっている。

第4因子は、革新指向的態度のなかの理想主義的・進歩主義的な項目(「私たちの努力で今の社会をよりよくしてゆきたい」、「社会の進歩に貢献する仕事をするにこそ価値がある」、等)に高く負荷しており、現代青年においても社会の改善・改革を指向する傾向が無くなったわけではないことが読み取れる。

第5因子については高い負荷が認められる項目が少なく、その性格も解釈困難である。

この探索的な因子分析の結果は、無気力的・虚無的、合理的・個人主義的、感覚的・娯楽指向的の3社会態度が主要な因子として抽出されているという点で、当初の理論的想定をおおむね支持しているといえる。一方、無気力的・虚無的社会態度の中の自閉的な要素が単一の因子を形成している点、感覚的・娯楽指向的的社会態度の中の享樂的傾向と伝統指向的的社会態度の中の大勢順応的傾向が単一の因子を形成している点等は、当初の枠組みを更に適切なものへと改善し発展させるために有益な知見であると考えられる。

大学生だけでなく、より多様な対象についても測定と分析を行いつつ、理論的枠組み自体について一層の吟味・改善を加えて行くことが今後の課題である。

## 要 約

本研究では、現代青年に特徴的な社会態度次元として、「伝統指向的」、「革新指向的」、「合理的・個人主義的」、「感覚的・娯楽指向的」、「無気力的・虚無的」の5次元を想定し、これを適切に測定するための尺度を作成することが目的とされた。

心理学研究者4名によって、社会態度の主要な領域と考えられる計11の側面について、各社会態度を適切に反映すると考えられる項目内容が収集・作成され、数回の検討・修正をへて全員の合意が得られた項目内容が予備調査項目とされた。

この予備項目群(計72項目)を国立大学の大学生および大学院生計188名(男子94名、女子94名)に実施した結果に基づいて、4段階の項目分析を経て、各次元8項目ずつ計40項目からなる社会態度尺度が構成された。

久世らの社会的態度尺度、および支持政党を外的基準として、本尺度の妥当性および独自の意義の検討を行った結果、本研究で作成された伝統指向的、

革新指向的、感覚的・娯楽指向的の各社会態度尺度の妥当性が支持され、また無気力的・虚無的および合理的・個人主義的の両社会態度の独自性が示唆された。

本研究によって明らかにされた、現代青年の社会態度の特徴に関する主な知見は以下の通りである。

- (1) 大学生において最も顕著な社会態度は、合理的・個人主義的態度である。
- (2) 感覚的・娯楽指向的態度は無気力的・虚無的態度と正に相関している。
- (3) 各尺度得点を因子分析して得られた第1因子は感覚的・娯楽指向的態度に、第2因子は合理的・個人主義的態度に高く負荷しており、革新指向的、伝統指向的、および無気力的・虚無的の3社会態度は、二義的な位置を占めるにすぎない。

## 引用文献

- 久世敏雄・浅野敬子・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎 1984  
青年期の社会的態度に関する縦断的研究—保守的態度、革新的態度に関する質的検討— 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 31, 25-41.
- 久世敏雄・浅野敬子・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎 1985 a  
青年期の社会的態度に関する縦断的研究—個人の変化過程の分析— 教育心理学研究, 33, 11-21.
- 久世敏雄・浅野敬子・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・宗方比佐子・大野久・内山伊知郎・和田実 1985 b  
青年期の社会的態度に関する縦断的研究—大衆社会的態度を中心とした質的検討— 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 32, 9-20.
- 久世敏雄・速水敏彦 1974 中学生・高校生の社会的態度に関する研究(1) 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 21, 1-11.
- 西平直喜 1967 現代日本青年の社会意識—態度測定 FMS の因子分析的研究— 山梨大学教育学部研究報告, 18, 119-128.